



みやじまの宿 岩惣 特別展

吉本忠則 ～ 愛と風と夢展

扇子から花扇画、風炉先屏風まで

世界遺産「厳島神社」の近く、もみじ谷公園の入り口にたたずむ純和風旅館『岩惣』ではこのほど、宮島が錦繡に染まる季節にあわせて、広島市出身の扇子作家・吉本忠則先生の作品展を開催することになりました。

吉本先生は現在、主に東京で創作活動をされており、近年は海外にも発表の舞台を広げておられますが、それはひとえに、日本文化の素晴らしさを世界に伝えたい、との強い思いがあつてのことと伺っております。

被爆二世でもある先生の芸術的信条は、人の心を癒し、慰め、勇気づけるような作品創りであり、誰にもわかりやすく奥が深い、“凡の非凡”という言葉が座右の銘にされています。

安政元年(1854年)創業の『岩惣』はいにしえより、日本建築の美と自然美との調和をたいせつにしながら、皇室や文人墨客をはじめ、国内外のお客様をおもてなしさせていただいています。今回の展覧は、そうした『岩惣』のところに相通うものであり、お一人お一人にかならずや、至福の“時間”と“空間”をご提供できるものと確信いたしております。

この機会にぜひ、世界文化遺産の「宮島」にお越しいただき、紅葉の美しさを愛でながら、吉本芸術の“安らぎと潤い”の世界をお楽しみいただければと存じます。

みやじまの宿 岩惣女将

岩村 玉希

みやじまの宿 岩惣 特別展

吉本忠則～愛と風と夢展

会期：平成27年11月20日（金）～26日（木）11:00～17:00

会場：『岩惣』本館、新館、楓泉

お問い合わせ

岩惣 広島県廿日市市宮島町もみじ谷

TEL:0829-44-2233

Mail:konrei1@iwaso.com <http://www.iwaso.com/>





人の心に“灯り”を

吉本忠則

世界文化遺産の景勝地・宮島で、しかも安政元年創業という老舗旅館『岩惣』さんにて、作品展を開催していただくことになり、感慨もひとしおのものがある。

両親が広島で被爆し、被爆二世として多感な時代を送った私は、原爆という言葉を知った時に、“平和への祈り”を肌身にしみこませてきた。

長く美術の世界に携わり、いま、創作活動に身を置くようになった私は常々、「芸術は人の心に灯りをともすもの」と信じ、そんな作品を創りたいと願ってきた。それは私の生い立ちと無縁ではないように思う。

このたびの展覧会で、「愛と風と夢」という言葉を使ったのも、私の作品がささやかながら、観る人一人ひとりの命の息吹を感じながら、作品の前にはしゃし立ち止まり、“癒し”“くつろぎ”のひと時を享受していただくことができたなら、作者にとってこれほど嬉しいことはない。



吉本忠則
2014年10月



1947年、広島市に生まれる。美術雑誌編集者を経て、アート・コーディネーターとして活躍するかたわら、扇子デザインに興味を抱き、2002年、『夏扇冬扇～和のオートクチュール』（東京・白金台）と題し初個展。05年、日本橋三越本店で『扇子・花扇画展』を開催、以後、毎年、同本店で個展を開催中。10年、小説『花影』（ポプラ社刊）を発表。13年には友永詔三（造形作家）、大出一博（ファッション・プロデューサー）らと二人展を開催。14年2月、山下智子（源氏物語の女房語り）講演にあわせ、パリ日本文化会館で扇子を展示。4月、和の生活マガジン誌『花saku』（PR現代）に“吉本忠則の古典文学花ごよみ”と題して連載開始。「2014 三越 秋の逸品会」に招待出品。10月シンガポール・マンダリンギャラリーで個展を開催。現在、島根・足立美術館アドバイザー。